

仲井眞弘多知事と宮城信雄会長との対談

平成19年2月13日（火）午後3時から沖縄ハーバービューホテルのクインズルームに於いて、仲井眞弘多氏の知事就任に際して、仲井眞弘多知事と宮城信雄会長との対談を開催しましたので、その内容について以下のとおり掲載致します。



仲井眞弘多知事（右）、宮城信雄会長（左）

○宮城会長　こんにちは。仲井眞知事には、ご多忙の中、沖縄県医師会会報掲載のための対談を快くお引き受けいただきましてありがとうございます。本日は私が司会を兼ねてこの会を進めてまいります。

県医師会では、月1回会報を発行し、約2,200人の会員と都道府県医師会、その他関係団体に配布して、多くの医療関係者に読んでいただいております。今回、広報委員会から「ぜひ知事と対談をして、掲載させて欲しい」との要望があり本日の対談を計画させていただきました。一つには、知事の人となりというのをぜひ会員に知ってもらいたいという意図があります。

それともう一つは、去年の非常に激しい知事

選挙を勝ち抜いて12月10日に知事に就任されてちょうど2カ月経ちますので、そのご様子を伝えたいと思っております。

○仲井眞知事　おかげさまで、あっという間に2ヶ月が過ぎました。

○宮城会長　就任した当日から国との交渉、それから基地の視察とか、この前は離島の視察で、多忙をきわめておられているようですが。

○仲井眞知事　先日は南大東にも行って参りました。

知事にご就任されての感想について

○宮城会長　市町村や各団体等から陳情を受けるといことで、マスコミに出ない日はないというぐらい、東奔西走、分刻みのスケジュール

ルをこなしておられる。ぜひ知事のこの2カ月間の感想をまずお聞かせ下さい。

○仲井眞知事 先程、宮城会長から選挙のお話がありましたが、私は沖縄電力という、いわゆる狭い意味の産業そのものの会社に20年ぐらいいましたから、それ以外の世界というのは実はあまりよくわからないまま選挙を戦いました。

医療関係者14団体をはじめ、全部で130団体のご支援を受けて、おかげさまで去年の11月19日に県知事選挙に当選させていただきました。また、宮城会長には私の後援会長をお引き受けいただきまして、改めてお礼を申し上げます。

選挙期間中も申し上げたんですが、選挙のときは県民が二手に分かれたわけですが、当選したら、今度は137万県民の代表として、県民のご意向を受けてしっかり仕事をしよう。私は県議会の与党を中心に支援はいただいたんですが、医療団体であるとか、産業団体、文化団体、いろんな団体の幅広いご支援を得て、「県民党」という色彩で当選したと思っております。その精神は忘れずに、いろんな分野についてご要望を受け、また、いろいろ教えていただいて、沖縄県の発展のために仕事をしたいと考えております。

12月10日に就任をし、おかげさまで2カ月経ったわけですが、私の政策運営の基本を2点に要約して申し上げますと、沖縄県は、こういう広い海の中の島で成り立っている県ですから、ユニバーサルサービスを目指します。つまりどんな小さい島、過疎地域やどんな地域であっても、公共サービス、広域的なサービスは、ほとんど同じようなサービスを実現したいと考えております。

それからもう1点は、東西1,000km、南北400kmというこういう海の中に点在する島でできている県は沖縄県しかありませんから。九州の熊本県のように島はたくさんあっても、九州という近場にあるという県と、海ばかりという県とは気候条件、地理的条件も全然違ってくると思います。したがって、沖縄本島を含めての島々がみんな助け合って、また古い言葉で



護送船団方式というんでしょうか、この精神で県政運営をやっているかと思っております。

○宮城会長 ありがとうございます。

その精神、知事の基本的な考え方というのは、非常に感銘を受けることがあります。

○仲井眞知事 そうですか。恐れ入ります。

○宮城会長 沖縄県知事は47都道府県の中でも、非常に特異的な立場におられるのではないかと思います。これは、先ほど知事が話されましたように、非常に広い範囲をカバーして、それから海に囲まれているから、そういう意味ではぜひ最初からの知事の基本的な考え方というのを貫いて行ってほしいと思います。

○仲井眞知事 よろしくご支援、ご指導のほどをお願いします。

公約（保健、医療・福祉の一層の充実等）について

○宮城会長 それでは、本題に入りたいのですが、保健・医療というのは、県民の生活を支える重要な基盤です。県民もその分野での拡充を非常に望んでいると考えております。

私たち医師会としても、専門性を生かして県民の健康の担い手として、県の医療行政には協力をさせていただきたいと考えております。

○仲井眞知事 ありがとうございます。是非よろしくお願い致します。

○宮城会長 仲井眞知事は、公約で、医療それから保健・福祉の一層の充実を図って、「長寿世界一の復活」、世界で一番元気な島を目指すということで、医師会が提唱しております

「健康・福祉立県」の実現をはじめ「産科医師の適正確保」、「助産師増」、あるいは「乳幼児医療費の免除システムの改善」、「医療政策参与配置」等掲げておられます。それぞれの公約をどのように今進めていくのか、ぜひお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○**仲井眞知事** 保健・医療につきましては、素人の私が今さら申し上げるのもなんですが、実現には、保健・医療のいろいろな分野に携わっている方々のお話を伺いながら、また、県庁の職員にも専門家が大量いますから、相談しながら展開していこうと考えております。

私はこれまで長寿世界一というのは、我々沖縄県民の誇りであると思っておりましたが、医療の専門家からご覧になると、もはや男性も世界一から落ちて、そして、女性もそう長く世界一は維持できなからうというようなお話があると同っております。何とか医師会の先生方のお力も得ながら、何年かかるかわかりませんが、世界に冠たる長寿世界一を取り返したいと考えております。

産科医不足の問題については、地域によって産科医の先生が足りない、現におられない、非常に不便がある等、大きな問題が指摘されていることから、昨年5月に設置された「離島・へき地医師確保対策委員会」の最終報告を踏まえ、平成19年度から医師確保対策を図ることにしております。助産師についても、絶対数が不足し偏在していることは明らかであり、昨年度から県立看護大学の助産師養成数を5人から10人に増やし対応しております。また、助産師免許取得者に対し、診療所への就労支援を図るため、今年度から助産師の技術研修を実施しております。県としては、昨年12月の県医師会等関係団体からの要請を踏まえ、今後とも県立看護大学の充実・強化を図る中で、将来にわたって安定的な助産師養成・確保に努めて参りたいと考えております。

それから、3番目に乳幼児の医療費の免除のシステムについても、次年度から少しずつ改善を図ることにしております。平成19年度は、対

象年齢を入院は4歳児から就学前まで、通院は2歳児から3歳児まで引き上げ、拡充する予定をしております。

入院時食事療養費標準負担額については、在宅医療と入院における負担金の公平化の観点から助成対象外とし、一方、入院世帯の負担増を緩和するため、入院時の一部負担金は廃止し、拡充した3歳児の通院についてのみ、同一月、同一診療科にかかる医療費（1レセプト）に千円の一部負担金を設定しました。

また、より助成を必要としている方々に対する支援を行うため、児童手当特例給付の支給要件に準じ所得制限を導入することとしております。2月議会の承認を得て、拡充の方向で取り組んでいきたいと考えております。

これではご満足はいただけないとは思いますが、ちょっとずつ前に進めてこれを積み上げ公約をはたすべく努力をしております。

医療参与・補佐官については、特に県の場合は県立病院を持っています。また、実際的な県民の保健・医療は民間の医療機関が担っているところが多々あります。こういう全体の医療の状況について、いろんなご提言なりアドバイス、ご批判、ご指導をいただこうということで、医療参与といいますが、補佐官のポストを設置したいと考えております。

○**宮城会長** アドバイザーというのでも、相談役でもよろしいですよ。

○**仲井眞知事** 医師会から強いご提言もありますので、これを何らかの形で4月から実現していきたいと考えております。

医師会からは、もう一つ医療にかかるシンクタンクも設立してやっていくべきだというご提言もいただいておりますね。

○**宮城会長** はい。よろしくご願ひ致します。

○**仲井眞知事** これもどんな形でやっていかは別にして、医療福祉事業団ほか、いくつかの今ある団体も上手に使う、ご希望に沿えるような内容のものをぜひ作れないかということで、これもできれば、19年度中にスタートできるように宮城会長にも相談したいと思っております。

○宮城会長 ありがとうございます。

医療参与、あるいは補佐官と名前はいろいろあると思いますけれども、そういう役割を担う方をぜひ選任をしていただいて、これは医療だけではなくて福祉、それから県の様々な政策に提言していけるような人をぜひ選んでいただきたいと思います。

○仲井眞知事 医師会からも適任者をご推薦ください。



本県の助産師不足について

○宮城会長 次に助産師不足です。先般、看護大学に助産師養成コースを設置して欲しいと要請させていただきましたが、それとは別に県立病院で助産師の資格を持っていながら助産師としては働いていない、看護師として従事している方が数十名いるということです。この方々に助産師として現場に戻っていただくような方策はあるのかどうか。これは新聞でもそういうような講習会をされているという記事を拝見したのですが、その辺について、県としてはどのような方策をもっておられるのか伺います。

○仲井眞知事 県立病院の助産師の数は129名おり、主に助産師を必要とする産婦人科病院棟に配置しております。また、南部医療センター・子ども医療センター及び中部病院では、周産期医療、母子総合医療センター、総合医療を専門的に行うため、関連するNICU（新生児集中治療室）に助産師を配置しておりますが、答えになってますでしょうか。

○宮城会長 これは県立だけではなくて民間の大きな病院でも、実際に助産師の資格を持ちながら現場におられないという方がいるわけですね。助産師を養成するには、少し時間がかかるので、資格を持っている人を研修なりを受けていただいて現場へ戻すという事業があれば、もう少し早く助産師の養成ができると思います。現場で働く方々の再教育について、県としてぜひそういう事業もやっていただきたいと考えております。

肥満対策について

○宮城会長 次に、先ほどの話にもありましたが、県民の健康で一番気になるのは、平成16年度政府管掌保険生活習慣病予防健診のデータで、30歳以上の男性の46.9%が肥満と診断され、非常に多いということです。それから女性も26.1%が肥満と診断されていることです。この肥満の問題をこのままにしておくと、男性の平均寿命はさらに低下をしてくる。それから、かろうじて1位の座を保っている女性の順位も低下は免れないと。これはあくまでも平均寿命の全国の順位が低下していると。「26位ショック」というのはそういうことなのです。

実際は、沖縄県の男性の寿命は伸びているのですが、他府県の伸び率が高かったために順位が26位に落ちたということであって、寿命が短くなっているわけではないです。その辺は、正確につかんでおかないといけないと思います。ただ、肥満率が全国一高いということは、これを放置しておくと順位はさらに低下をするのではないかと懸念しております。そのため医師会では、知事と同じ目標、長寿沖縄県の再生を目指しているんな取り組みをしております。

2003年から「ゆらぐ健康長寿おきなわ」ということで、それをメインテーマにして年に4回ほど県民公開講座をやっているんですね。これは医師会だけの取り組みだけでは力不足で無理があるということで、ぜひ県も一緒になって肥満対策に取り組んでいただきたい。それに対して県としては、どういう取り組みをされているのか。一緒にやっていけるのかどうかということですね。

○仲井眞知事 宮城会長が今おっしゃったように、県の医師会では県民公開講座を開いていただき、いろんなことで普及・啓発に取り組んでいただいております。我々としても大変ありがたいと思っております。「健康おきなわ2010」、これは平成13年度に策定したプランで、そのプランを推進するために沖縄県医師会をはじめ、各保健医療団体や国・県の関係機関、市町村、婦人団体、商工団体、農業団体等の関係32団体で「健康おきなわ2010推進県民会議」を設立し、県民一体の健康づくり運動の推進を図ってきました。

県民会議では、平成17年度から平成18年度にわたって、肥満対策を重点課題の一つに設定し、平成17年度に実施した「健康おきなわ2010」の中間評価や、政府管掌保険生活習慣病予防検診の結果から肥満対策の強化が急務として、平成18年4月に「肥満対策緊急アピール」を行っております。

それを受け、県では肥満対策の普及啓発テレビスポット広告やポスターの配布、沖縄版食生活バランスガイドの研修等を実施するほか、各団体においても、講演会や健康相談会、県民ウォーキング大会の開催など様々な普及啓発事業が実施されております。

「長寿世界一復活」を公約の一つに掲げた私としましては、「健康おきなわ2010」を公約実現に向けたアクションプランとして改定し、肥満対策を始め健康づくりについて県としての取り組みを強化してまいります。県民会議を中心とした健康づくり運動を県民一体で展開していく必要があることから、今後も県医師会にはご協力と連携をお願いしたいと考えております。

県立病院事業への今後の取り組みについて

○宮城会長 去年の4月に県民が待ち望んでいた県立南部医療センター・こども医療センターが開院しております。既に知事はそこを見学に行かれたと思いますが、開院当初というのは小児の救急患者というのが殺到して、診療機能も麻痺状態に陥ったと。一部外来を閉めて縮小

をされたようですが、現在の病院全体の状況はどうなっているのでしょうか。

それから、県立病院は非常に大きな赤字を抱えております。県立病院全体として累積赤字もだいぶあると思うのですが、その県立病院の事業については今後どういうふうに取り組んでいられるか、ぜひ知事としてご意見をお聞かせ願います。

○仲井眞知事 南部医療センター、それからこども医療センターについて、私もつい先日勉強を兼ねて視察に行つて参りました。私が考えていた以上に立派な病院だなど。最近の病院とはああいうものだという、私も目からウロコが落ちるような体験をさせていただきました。

開院当時は、特にこども医療センターに患者さんが大勢殺到して、会長がおっしゃったような状態にあったようですが、現在はおかげさまで何とか落ち着きを取り戻しております。昨年4月が平日で1日45人、土・日曜日で80人程。これが5月以降はそれぞれ平日40人、土・日曜日で65人という状況です。

あと、今の県立病院の事業についてですが、これはまさしく頭の痛いところで、赤字を放置したままでは、基本的にどんな事業でも長続きは難しくなってくるのが当然です。宮古病院も老朽化が進んでおり宮古のみなさんには随分ご迷惑をかけています。赤字体質からの脱却を図らなければ、設備の更新とか、必要な手が打てなくなるとか、物事がなかなかいい方向に展開しないという状況が強くなってきます。これについては私もぜひいろんな方のお知恵も借りて、県立病院の各院長とか、病院事業局長だけが頭を悩ませるのではなくて、県庁全体でこれに取り組まなければならないと考えています。同時に「こども医療センター」のように必要とされていることにしっかり取り組んでいくことも県立病院の重要な使命だと思います。

赤字というのはいずれにしても出るのを精選し、場合によっては抑制し、入るのは拡大するというに原理原則は尽きると思います。

一方で、県が税金を使ってしっかりやるべき

ものというのも当然のことながらありますので、早いうちに本来やるべきものを洗い出して、ニーズの内容は年々歳々変わっていくとは思いますが、赤字で苦しい病院の経営管理をやっている院長先生方を今の状態から何とか解放して、きちっとした形をなるべく早目に実現したいと考えているところです。一部局でこの悩みを背負うというのは、これもなかなか大変でして、私も一生懸命取り組んで参りたいと考えています。

○宮城会長 この問題については、これまで「病院健全化検討委員会」というのが数次にわたって開かれて、いろいろ提言をしてはきているのですが、なかなか問題解決になっていないのが現状です。

○仲井眞知事 我々行政側がご提言を実行していないんですかね。

○宮城会長 その辺のところは非常に難しいのがありますが、民間のほうから見たらどこに問題があるかというのはすぐわかります。知事も民間におられたので、なぜ赤字になるかというのは、見たらすぐわかると思うのですが、先ほど言ったように、病院というのはどうしてもしなければいけない医療というのがあるんです。赤字でもやらなければいけないというのはあるのですが、これだけ膨大な赤字をつくり続けるといのは1つ問題があると思います。その辺については別の観点から提言はできているんですけども。知事が先ほど言われたように1つの部局でやろうしたら、なかなかそう簡単に解決できないのがあると思います。そういうことから先程申しあげたアドバイザーとかいうのが役に立ってくると思います。全く別の観点からいろんな意味での提言ができるということになってきますので。

○仲井眞知事 そうですね。ぜひそのアドバイザー、補佐官の先生の意見を伺いたいと思います。

民間、外から見ると、理由、原因ははっきりしているという宮城会長のお話を聞いて安心しました。

○宮城会長 ただ、問題の解決には一つの部局だけでは難しいのがありますので、先程、知事のお話しにもありましたとおり県庁全庁を挙げて取り組んでいただきたいと思います。

○仲井眞知事 原因がはっきり見えているということは、ある意味で半分以上は問題解決だが、ただ、それを時間をかけて実行しなければいかんという部分もあるし、残してじっくり取り組む問題もあるかもしれません。ご提言をひとつよろしくお願ひします。

ご家族の看護・介護経験をとおして

○宮城会長 仲井眞知事はご家族の看護・介護の体験があるとお伺いしております。この看護・介護体験を通して、県民の1人として、それから知事としての立場から私たちの医療の現場を預かる者に対してのご意見とか、ご要望があれば、ぜひそれをお聞かせいただきたいと思います。そういう要望、問題点があれば改めていきたいと思います。

○仲井眞知事 うちの女房は元気者だったのですが、6、7年前に脳梗塞で倒れて、言葉が出なくなって半身が動かないという状態になり、それから約2年近く介護生活となりました。本人が病院嫌いでした、なるべく家で介護しようということになったのですが、私も当時、沖縄電力の社長の身であり、そんなに時間があるというのではなく、彼女の友達3人が入れ替わり立ち替りいろんな意味で応援してくれて助かりました。倒れた6、7年前というと介護保険制度がちょうど始まった時期だったかもしれませんね。例えば夜中でも、2時間おきか3時間おきにきていただいてちゃんと対応してくれるし、入浴なんかも頼むと週に2、3回若いヘルパーの方が来て手際よくやってくれて、私は、あの介護保険の仕組みというのは非常に有り難いと思いました。

それから、お医者さん、看護師さんにもお世話になりました。お医者さんは2週間か10日にいっぺんぐらい来ていただきまして、相談にものっていただきました。また、何か所かの病院

にも入院させていただいて、病院にも大変お世話になりましたが、いずれにしても介護の仕組みはあれから6、7年経っていますから、もっと成熟していると思います。

介護というのは体験して分かりますが、家族だけでやっていると病人に対しだんだんきつことを言ったりします。しかし、他人は丁寧に対応していただけますので、助かります。娘達には私がもし将来倒れたら、全面的に社会の介護システムを活用するようにいってあります。

○宮城会長 介護というのは家族だけでやると非常に大変なことです。そういう意味で介護の社会化ということで、社会が面倒をみようということで介護保険が制度化されました。仕組みはそういう形で介護保険が出てきておりますけれども、またそれが逆にお金の問題で元に戻りつつある。家族にまた面倒をみさせようということになってきているので、介護保険がなぜ出てきたのかということを引きつつかんでおかないといけないと思います。ただ、これは県の役割というよりも国の役割なんですね。ですから、介護にしても医療にしてもきちっとしたシステムができていないといけないと思います。

ただ、知事ご自身が介護を経験されたということで、こうあったほうがいいというのは実感としておありであるということがよくわかりました。

○仲井眞知事 個人の、素人の実感としてですね。

○宮城会長 それがシステムとしてやられるように、ということがあればいいなと思っております。

それと、介護にしても医療にしても非常に人手を要するんですね。知事は失業率を本土並にすると公約に掲げておられますが、介護や看護については、養成すればその分だけニーズはあるということです。そういう意味で、人を養成するということはぜひこういう面からでも押さえておいていただきたいと思います。

○仲井眞知事 私は「雇用大作戦」というこ

とで、今度いろんな展開をぜひしたいと思っています。そういう中で県の部局でいいますと、観光商工部、土木建築部、農林水産部、文化環境部を中心に、それとまさに、今宮城会長がおっしゃった医療・介護を含めてかなりの分野において、いわゆる民間ビジネスになっているところがありますので、そういうところも雇用・産業の大躍進計画に繋げていただこうかと思っております。

○宮城会長 それともう1つの公約である「10年後の観光客数1,000万人」ということですが、それにも医療福祉は関係しているんです。沖縄は、癒しの島・長寿の島ということで沖縄を訪れる観光客は非常に多いですね。リピーターも多い。そういう意味で医療福祉をきちっと押さえておかないと、観光客も増えてこないという側面もあるんです。観光にもつながるという観点からも健康福祉立県を言っているんですね。

○仲井眞知事 そうですね。確かにこれはインフラの1つでもあるし、沖縄に移住してくる人たちがなぜ多くなったかという中で、今、宮城会長がおっしゃった医療・福祉を充実させて、他府県から沖縄に安心して移住できる環境ができればいいと思います。さらに、沖縄の産業が元気になって税収が増えたら、独自に医療・介護等へ県自らのお金を投入していけば、ほかの県に比べてもっともっと、癒しの島として整備をし、そういうベースがあれば、もっともっと将来の観光立県の中身は健康福祉立県だということまでつながるのではないかと思います。

○宮城会長 すべてリンクしているんですね。観光立県にしても雇用の拡大にしても。それから、観光客1,000万人にしても。それは1つのある一定の考え方を推し進めていけば実現の可能性が出てくるということです。ぜひそのへんのところをお願いいたします。

○仲井眞知事 ぜひまたお力を貸してください。

健康の秘訣について

○宮城会長 最後になるのですが、仲井眞知事は大変スマートでいらっしゃいますが、健康の秘訣とか、何か普段から心がけておられることがありましたら、ぜひお聞かせください。

○仲井眞知事 まず第1に、よく寝ることですね。私はとにかくよく寝るんですよ。それから、第2に、落語を聞くこと。落語のCDは500~600枚持っています。これを実際の数にすると千ぐらいの落語になると思います。そういう「のんき印&睡眠十分」で、スポーツはほとんどやっていないんですが元気です。

○宮城会長 先ほど話に出た「健康おきなわ2010推進県民会議」では、重点項目を掲げています。平成17年度は肥満の問題を取り上げました。18年度は3項目あって、肥満と虫歯予防、それともう1点は禁煙なんです。

今度19年度の重点項目もやっぱりこの3つということですが、知事はヘビースモーカーというか、タバコが非常に好きだという話をお聞きしております。医師会は禁煙運動というのをやっていて、47都道府県医師会が全館禁煙になっております。ただ、会長室だけは治外法権という医師会もあるようですが。

○仲井眞知事 それはよくないですよ。

○宮城会長 そうですね。そういう意味で仲井眞知事がもし率先して県庁の中でそういう禁煙運動をされたら、数千人いる県職員は見習うと思うんですが、如何でしょうか。

○仲井眞知事 わかりました。なるべく早目に禁煙を実行すべく努力したいと思います。

○宮城会長 医師会の中では「禁煙外来」ということもあって、タバコを止めるための援助というのをやっています。これは医療保険の適用にもなっているぐらい健康を取り戻すために重要視されています。先ほど言った推進会議の平成19年度の重点項目は、虫歯と肥満とタバコで

すから、知事が実行するとこれは非常に大きな県民運動になっていきます。

○仲井眞知事 19年度もそうであれば、是非実行しなければいけませんね。

○宮城会長 それが健康を取り戻すことのみならず第一歩ということになります。それから、長寿が復活をすれば観光の面でも貢献しますし、知事の公約したいくつかの重点項目はこれで解決することになると思います。

○仲井眞知事 そうですね。みんな結構つながっていますね。

○宮城会長 そういう意味ではぜひご奮闘をお願いしたいと思います。

○仲井眞知事 ぜひご指導をいただきたいと思ひます。

○宮城会長 先ほど知事は落語がご趣味だというお話しがございました。そのような知事の内面を存じ上げている方は非常に少ないのではないかと思います。知事の人となりとか人柄というのを、お正月のテレビで放映された新春対談を見て初めて知った方というのは多いのではないのでしょうか。そういうことから考えると、本日の対談は非常に良かったと思います。この雰囲気をなんとか会報を通して会員へ伝えて参りたいと考えております。

知事へご就任されて2ヶ月ですので、これからの長丁場を頑張っていたただかないといけないので、ぜひ健康には留意されて下さい。日本の47都道府県の1つということではなくて、非常にかげがえのない役割も担っておられるので、沖縄のためにぜひ頑張っていたただきたいと思ひます。本当に今日はどうもありがとうございました。

○仲井眞知事 こちらこそどうもありがとうございました。まだ勉強不足で、雑ばくな話にしてしまいましたが、今後ともよろしくご指導のほどお願い致します。